



2022年5月13日

各 位

会社名 Oakキャピタル株式会社
代表者名 代表取締役社長 稲葉 秀二
(コード：3113 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 IR・PR室長 小玉 誠一
(TEL. 03-5412-7474)

営業外収益の計上、連結業績及び個別業績の前期実績との差異 並びに剰余金の配当（無配）に関するお知らせ

当社は、2022年3月期において営業外収益を計上いたしましたので下記のとおりお知らせいたします。また、本日「2022年3月期決算短信（連結）〔日本基準〕（連結）」で公表しました連結業績及び個別業績の前期実績との差異並びに2022年3月31日を基準日とする剰余金の配当につきまして下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の内容およびその金額

2022年3月期第3四半期連結累計期間（2021年3月1日～2021年12月31日）において為替差益89百万円を計上しておりましたが、為替相場の円安の進行により、2022年3月期第4四半期連結会計期間（2022年1月1日～2022年3月31日）において153百万円の為替差益を計上いたしました。

この結果、2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）における為替差益の計上額は243百万円となりました。これは主に、当社グループが保有する外貨建債権を2022年3月末時点の為替相場で評価したことにより発生したものであります。

2. 連結業績と前期実績との差異

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 連結当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前期実績（A）	百万円 5,531	百万円 △706	百万円 △780	百万円 △951	円 銭 △17.73
当期実績（B）	2,611	△1,034	△969	△1,663	△29.62
増減額（B－A）	△2,919	△327	△189	△712	
増減率（％）	△52.8	—	—	—	

(差異が生じた理由)

前期に比較し、連結売上高は金融事業における上場株投資の投資回収およびクリーンエネルギー事業における太陽光発電システムが、それぞれ大幅減少となりました。連結売上高減少に伴い、連結営業損益では1,034百万円の営業損失となりました。また、連結経常損益において為替差益が203百万円増加したものの、持分法による投資損失229百万円を計上したことから、経常損失は969百万円となりました。また、特別損益において役員退職慰労金327百万円、事業構造改革費用101百万円、減損損失47百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する連結当期純利益は712百万円減少し、当期純損失1,663百万円となりました。

3. 個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 1,637	百万円 △611	百万円 △604	百万円 △617	円 銭 △11.52
当期実績 (B)	169	△645	△341	△2,690	△47.90
増減額 (B - A)	△1,468	△33	263	△2,072	
増減率 (%)	△89.6	—	—	—	

(差異が生じた理由)

前期に比較し、売上高は、金融事業における上場株投資の投資回収が約14億円の大幅減少となりました。また、経常損益においては為替差益が203百万円増加し、前期の貸倒引当金繰入額72百万円がなくなったことにより、経常損失は263百万円の改善となりました。特別損益において事業構造改革費用△1,068百万円、関係会社株式評価損△946百万円、役員退職慰労金△327百万円を計上したことにより、前期比2,072百万円減少し、当期純損失は2,690百万円となりました。

4. 剰余金の配当

(1) 配当の内容

	決 定 額	直近の配当予想	前 期 実 績 (2021年3月期)
基準日	2022年3月31日	同左	2021年3月31日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

(2) 理由

当社は、株主の皆様に対する利益還元につきましては、経営成績、財政状態、経営環境及び今後の事業展開に備えるための内部留保も勘案のうえ、継続的に実施することを基本方針としております。

しかしながら、業績動向を勘案した結果、誠に遺憾ながら当期の期末配当を無配とすることといたしました。

以 上